

PHD LETTER <15> 1985.6

PEACE·HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- ネパールから見たPHD運動—シバ・シュレスタ氏に聞く P. 3
- 研修フォローアップレポート P. 4-5

PHD運動とは、1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじめました。

発 行:財団法人PHD協会

編 集 人:草 地 賢一

住 所:〒650 神戸市中央区元町通5-2-3

甲南サンシティー元町ビル 711 TEL(078)351-4892

郵便振替:神戸1-29688財団法人ピース・エイチ・ディー協会

定 價:100円

レイアウト:エフ アンド エフ



タイ第三の都市チャイマイから北西へ車で8時間、山岳民族のひとつ、カレン族の村で、竹筒で水を運ぶ婦人

住民の所に行って 彼らの中に住んで
その土地の気候 風土 習慣の中から生活の知恵を学び
しかし 危険な迷信はやめるようにすすめ
相手の身になって考え 相手のニードに応じて自らを用意し 相手と共に生き
彼らが知っていることで始め 彼らがもっているもの上に築こう!!
最後に 君が今 最上の指導者であるならば
将来その事業が完成したときに 住民はこう言うようになる
「この事業を完成したのは われわれ自身だ」と

スイスでの話 子供の心に育つ思いやり



PHD協会理事 鮎坂二夫

1909年鹿児島生まれ、京都大学卒。
鹿児島大学教授、京都大学教授を経て現甲南女子大学長。

「あれほど感じ入ったことはありませんでした。そして、私たち日本人はもっともっと考え方直さなければいけないと思いましたよ。」スイス留学から帰国した友人の大学教授の述懐であった。この友人は妻子を伴って渡欧。子供は、ちょうど幼稚園期であった。やがて小学校に上らなければならぬ。「これには困りました。」と言った。そうであろう、わが子の教育の問題こそ、海外にいる人の一番の関心事であると言うから、スイスでは多く、ドイツ語、フランス語、イタリア語が語られ、それでも英語で教える私学もあるが、月謝が高い。そこで奥さんと相談して、ドイツ語で教える学校を選んだ。彼は多少のドイツ語は理解できる。奥さんと子どもは完全分離しない。「それでも已

むを得ないと自分に言い聞かせて決心しましたよ。」と語った。入学の日、奥さんは子どもを連れて、一抹の不安をいだきながら小学校へ。校長先生に伴われて、母と子は一年生の教室に案内された。30人位の一学級の子どもたち。みんなが拍手で迎えてくれる。その親しみ深い雰囲気にもかかわらず、子どもは示された席に座ると、下を向いたまま。やがて涙が。奥さんは、予期したものがあつたと観念したという。ところが、教壇に立った校長先生は子どもたちに向って言った。「さあ、みんなで歌をうたおう。」と。立ち上った子どもたち。そして歌われた歌。それが「でんてん虫」しかも日本語ではないか。これを聞いた子どもが、涙目でっこり笑った。自分も立ち上って一緒に歌った、その「でんてん虫」を奥

さんからこのことを聞かされた友人は、心から驚いたといふ。早速校長先生を訪れて、事の次第をうかがうと、校長の答はこうであつた。「いや、あなたがお子さんの入学について相談にみえた時、私は、今日のことを予想しました。そこで、あなたの子さんと同じクラスに入る答の子どもたちの世話をしている幼稚園に行って、園長に頼んだのです。『その子どもたちに“でんてん虫”を教えておいてくれるように。日本語で。』私の友人は感慨をこめてここまで語った。

問題は言葉や観念ではない。実行なのである。「人もし汝に一里の行を請いなば、喜んでその二里を行け。」バイブルにも、こう教えられている。犠牲とはそのようなことであろうか。

PHD運動の 輪をひろげるために

新しい年度が始まって2ヶ月たちました。今PHDの事務所にはアジア3ヶ国からの研修生4人と会員の人の活気あふれる声が

こだましています。

来年度からは更に多くの国々から研修生を迎えて、もっとこの草の根の国際交流運動を拡大したいという願いが大きくなっています。

去る4月末には評議員会の小委員会が開かれ、財團の基本金充実のための募金運動が動き始めるとこままできました。

いっぽうこの運動は会員の参画によって展開されるものであることはよくご承知のこと

と存じます。現在何とかして一人でも多くの会員を発見し加わっていただくよう会員増強に努めています。

日本の国際協力事業が国家のみでなく市民の手でねばり強く継続していくためにはNGO(非政府組織)が成長しなければなりません。みなさんの地道なご協力とご支援を心からお願いします。

PHD協会総主事 草地賢一

る。私達のまわりには、フィリピン大学医学部の学生達が丁度12人食事をして居る。皆、無医村診療の実習にやって来た医師の卵達である。その医師の卵達の先輩であり、フィリピン大学・共同体保健計画の教授であり、4

人を選んでPHD研修生として日本に送ってくださったドクター・ギャスメンも、皆と一緒に質素な食事が終ると、簡素な食堂は、そのまま談話室になった。

4人のPHD運動推進者1人1人を、3人ずつの医学生達が取り囲んで、話がはずんでいく。4人は力説する。

「Peace平和も、Health健康も、叫んで居るだけではやって来ない。『私と貴方が、自分よりも貧しい隣人と共に、自分の時間、知識、技能だけではなく、せめてポケット・マニーの10パーセントを分かち合う人間になるHuman Development』これしか、無医村を「なかよく、すこやかに、いきいきと」した共同体にする道は無い！」

ドクター・ギャスメンは、にこやかに言わされた。

「PHD運動は、ここでも始まった。」

架け橋

PHD運動提唱者 PHD協会理事

岩村昇

「なかよく、すこやかに、いきいき、いただきまます！」

元気な声がひびいて来る。フィリピンPHD運動推進者パリサレス氏、リト氏、ウイリー氏、レネ氏の4人である。フィリピンの首都マニラから乗合バスで1時間半、ラグナ県バイ郡バイ町にある包括的共同体保健計画・附属病院の食堂で、私達は昼食をいたいで居



講演会場の岩村博士

編集部(以下編とする): シュレスタさんが期待するPHD研修生とはどんな人でしょうか。

シュレスタ(以下Sとする) まず、地域社会に貢献していく姿勢と経験を持っている事が大切です。更に、日本から帰国して地域の草の根の人々と共に生活改善に取り組む事を考えると、人々を指導できる能力と共に、自らを変えていく事のできる資質をもった人であることが必要だと思います。そして最後に、経済的にも精神的にも自立した人間であること。こうした条件を満たす人は少ないので、しかし彼等こそがPHD精神を人々に伝えていくと思います。今、日本に来ているショーパナさんもニーランさんもこの期待にそえる人材と確信しています。

編: 帰国後、研修生達がネパールでPHD運動の実践者になっていくために必要な事はなんでしょう。

S-それは、「生きることは分かちあうこと」というPHD精神を生活の中で実践すること以外ありません。この精神を実行しながら、日本で学んだ技術・知識の普及を通じて具体的な生活改善を時間かかっても行なっていくことです。ご承知の通り、研修生自身も村の人々本当に貧しいです。具体的な改善があつて初めて、その過程で示されるPHD精神が受け入れられるのが実状だと思います。

編: そうした研修生達の働きを支えるためには、ネパール国内でPHD運動の支持者を増やしていく事も必要ではないでしょうか。

S-まさにその通りです。私は、この「共に生きる」理念を実践を通じて私達自身のものにしていきたいと考えています。幸い、PHD運動に理解あるいは興味をもった人々、団

ネパールから見た PHD運動

シバ・シュレスタ氏に聞く

Mr. Shiva Shrestha
ネパール結核予防会プログラム・ディレクターとして、長年結核の早期発見治療に取り組む。PHD研修事業のネパール側推進者の一人。所用のためこの4月来日。ネパール、カトマンズに住む。

々も本当に貧しいです。具体的な改善があつて初めて、その過程で示されるPHD精神が受け入れられるのが実状だと思います。

編: そうした研修生達の働きを支えるためには、ネパール国内でPHD運動の支持者を増やしていく事も必要ではないでしょうか。

S-まさにその通りです。私は、この「共に生きる」理念を実践を通じて私達自身のものにしていきたいと考えています。幸い、PHD運動に理解あるいは興味をもった人々、団

体がネパールには沢山あります。また、資金的にも日本の皆さんの善意に頼るのみならず、ネパールの中産階級の人々自身が研修生の働きを支えていくようになって欲しいと思います。要は、ネパールにおいてこのPHD運動をいかに拡めていかが、帰国した研修生の活動の成否を握る一つの鍵だと思います。

編: 私達は物やお金でないフォローアップで研修生を支えたいと考えています。

S-実は研修生の帰国後の活動を支えるもう1つの柱はフォローアップなのです。まず、今年の1月岩村博士と共に日本で指導された先生がネパールに来られ、研修成果と一緒に発表しました。これは研修生自身にも、また人々に知つてもらう意味でも大成功だったと思います。今後も何とかこうした形で、日本人の先生と共に研修生とPHD精神を人々に紹介していきたいと思います。また、物・金での支援に私は基本的に賛成ですが、新しいプログラムのスタート時点においては、ある程度の資金的・物質的支援の検討が必要なこともあります。

(4月24日、神戸において英語によるインクルーブ)

ON THE WAY

先回に続き第2回の報告はタイ、ビルマ、フィリピンです。ネパール、スリランカは初めての訪問でしたがビルマは4年ぶり、タイは10年前に1年余り住んでいたこともあって緊張が少し柔らかくなりました。

バンコクから約40

分の空の旅でラング

ーン郊外のミンガラ

ドン空港に着きます

機内の乗客約6割が

日本人。40年前に戦

ったインバール作戦

の戦場を訪ねる60

代の人々が中心でし

たでした。

4年前と較べて変ったこと。ラングーン市内の建物がきれいに塗り替えられ明るくなつたこと。変わつたこと。第一はブラックマーケットの隆盛と裏腹の民衆の不満。第二は少数民族の分離独立を求めての内乱等々。ここでも都市と農

村の格差は大きく僕の訪ねたラングーン郊外の村の貧しさはスリランカに近いものでした。

医師を始めとして政府に働くテクノクラートから一般の民衆に至るまで国外へ出ることは極めて困難でそれだけにその願望は極端に強く感じられました。今ビルマで最高の職業は外国航路の船員であるというのもその意味では頗ります。

バンコクのドンムアン空港からダウントンまでの風景が変りつつあります。



村人が本当に必要なため池

以前は水田であった所に団地が出現し道路が整備されてきています。チエンマイも10年前と較べて郊外の団地化が進んでいました。しかし農村からの人口流入は必ずしも減少してはいないと聞いて

いますからスラムの人々がこのような立派なところへ移るはずがない。とすればタイにも中流階級が出現しつつあるのでしょうか。やはりバンコク郊外にインバールの友人宅に行った時、彼も又給料の50%をローン支払にまわしているとのことでした。にもかかわらずまだ大多数の農村の生活は中流に程遠いのが実状です。チエンマイから北西へ8時間ランドロードで走って、ようやく今年の研修生ブリチャー君の村ムシキに着きます。村民の意向と関係の無いため池が乾期で水不足の村のはずれに満々と水を貯めています。聞けば日本の援助で王様がつくったとのこと。ここでも農民の苦しさが忘れられていません。

ビルマ、タイ、いずれも都市と農村の格差はものすごく今求められているのは草の根の進歩だという実感を強く持った訪問でした。紙面の都合で次回にアキノの暗殺以後昏迷を深めるフィリピンにて感じた事を記して報告を締めくくりたいと思います。(草地賢一)



水利と関係のない王様寄贈のため池



日本人は歩くのが早く、ご飯を食べるのも早いですね。私も早くなりました。私は早いのが好きです。私の村の子供たちは学校に行きたいでも、家の手伝いのために途中でやめることが多いのですが、日本ではみんなが学校へ行けるので驚いています。

滞在家庭から 神戸市北区 草地さん宅

はじめはタイ語だけで、お母さん達も大だっただけで、日本語がどんどん上手になつたので嬉しかった。一大作(小6) もっと長くてほしいのにお別れでいやだな。いっしょに遊べて楽しかった。一まい子(小5)

彼の村は土質が悪く作物が育ちにくいので、土作りと肥料研究が中心的な課題になります。実際に作物の栽培を通じて学んでいます。

●ショーナ・カセコスターさん(ネパール)
日本はとても発展しています。また親切な人が多いと思います。日本の人はいつも忙しくしていますが、ネパールの人はそうでもないで、時々、空気のおいしい、自然の豊かなネパールが恋しくなります。



滞在家庭から 神戸市須磨区 西田惠美子さん
私は何かの形でPHD運動に加わりたいと思いショーナさんをお迎えしました。

彼女のシャワーや洗濯の時、水の音が小さいので尋ねてみましたが、「オーナーの姿勢ません」との返事に、私たちの日々の姿勢を正された想いがしました。また、彼女のつくるネパール料理を味みながら、食事日本の食生活についても課題を与えられたと思います。「共に生きる」という言葉をうわべでなく、実感しながらします。明るく楽しいふれあいができる、我が家に有形、無形のものを残した彼女とのお別れが辛く感じられます。

洋裁を基礎から学び、ネパールでは入手しにくい既製品の婦人物スース・コートが縫えられるレベルを目指します。

研修フォローアップレポート



ネパール、タイからの第3期PHD研修生3名は3月28日に、フィリピンからの短期研修生1名は5月2日に、無事来日しました。4月上旬に多くの参加者を得て行ったオリエンテーション合宿(淡路島五色町)、その後の日本語学習を経て、5月から各々の専門研修に入っています。国際研修は、地獄の平和や健康づくりのための技術習得と、それを村ですすめていくためのリーダーシップ養成をめざします。来年3月までの滞在を通じて多くの方と出会い、互いに学び合ってほしいと思います。

研修生予定表

	5月	6月	7月	8月	帰国
プリヤーさん 植木、堆肥づくり	兵庫県美方郡 井上さん宅	神戸市西区 ・松根さん宅 上と林の会	合宿 研修 淡路島五色町 農文連		
ガウチャンさん 大豆の栽培、加工	神戸市須磨区 ・松根さん宅	西宮市甲陽園 農業学校			
ショーナさん 洋裁	西宮市 ・市川さん宅	大阪府 ・市川さん宅 淡水魚試験場			
フランクリンさん 淡水魚の養殖	大阪府 ・市川さん宅 淡水魚試験場	大阪府 ・市川さん宅 淡水魚試験場			

BOOKS紹介

アジア農村のダイナミックス

岩村昇・松下拡・野中耕一・中村尚司・長峯義夫
YMOCA国際・社会奉仕センター刊 500円

カンボンのガキ大将

●ラット作
●荻島草苗
●晶文社刊 1600円



マレーシアの農村の生活、風俗、習慣をとても楽しく、そしてちょっぴり悲しく描いたこの作品は、作者の子ども時代を表したもので、昔からの習慣などを大切にし、仲良く素朴に暮らす人々。日本で出版されたアジアの作品の中から、ほのぼのとした絵本をご紹介します。

本文より

ユーメンタリーではなくすべて報告者は実際に草の根の人々の中に分け入り、そこで出会いを見たその人々の実践を客観的にまとめていく。従って表現は具体的でシンプルである。特にアジアのレポートに加えて長野県松川町からの報告は身近なケースとして説得性が高い。

アジアの一般的理解から一步進んで自分はどういうふうにそこに関わるかと探索する人々にとって本書は具体的な指針を与えてくれるであろう。

アジアを助けてあげようという視点でなく、草の根から出てきた本当の芽が育ち、広がるものである。構成は5人のスピーカーの話をまとめておりそれぞれに簡潔で読み易い。一般論を学術的に叙述したとか主観的なドキ

PHD協会でも取扱います。お問合せ下さい。

トルカリ (カレー風野菜料理)

材料(4人分)

じゃが芋:1個 カリフラワー:1/2個
にんじん:1本 玉ねぎ:1/4個 トマト:2個
骨付き鶏肉:300g にんにく:1片
唐辛子:1本 おろしそうが:大きめ
カレー粉:小さじ1 塩:少々

作り方

- ① じゃが芋は4ヶ切り、トマト・にんじんは乱切り、カリフラワーは小房に分けます。
- ② サラダ油大さじ2を熱し、玉ねぎ、唐辛子のみじん切りをよく炒めます。
- ③ ②に鶏肉、おろしそうが、おろしにんにく、カレー粉、塩を入れ炒めます。
- ④ ③に①を加え、水2カップを入れ煮込み。汁けがなくなったら皿に盛りつけできあがり。

甘の根交差点

ネパールの台所

タルカリ
タル
タル

タル

(豆のスープ)

材料(4人分)

ささげ:1カップ 玉ねぎ:1/4個
トマト:1/4個 ピーマン:1個
おろしそうが:小さじ1 バター

作り方

- ① 一晩水についた豆、水3カップ、塩少々を弱火で1時間煮て、水気がなくなったらぶし、さらに水4カップを加え煮ます。
- ② 玉ねぎの薄切り、ピーマンの細切り、トマトの乱切りをバターで炒め①に加え塩で味を整え、最後にしょうがを加えます。ご飯にかけてもちろん手で食べます。



フォローアップ報告

ビレンドラ・アマティさん
(第1期生・ネパール)

帰国してまもなく2年になろうとするアマティア氏から手紙が届きました。彼はネパールに戻り、結核予防会で仕事をしてきましたが、彼がめざしていた「養鶏計画」に本格的に着手するため、独立したようです。詳しい計画を待って、PHDからの支援を決定しますが、別の地域で養鶏にとりくむ、ビスター、アディカリ氏のフォローアップと合わせ、今年12月に、彼ら3人が日本と共に世話をになった養鶏専門家のネパール訪問指導を予定しています。彼を激励する手紙を届けたいと思います。日本語でも結構です。PHD協会までお送り下さい。

この眼で
インドネシアの漁村を
第4期生受入れ準備スタート

岩村博士講演会・PHDセミナー開催そして、3期生の合宿受入れとPHDの輪が着実に広がりつつある淡路島の五色町で、次期研修生の受入れ準備が始まりました。インドネシアのペイ先生の訪問(14号に登場)を機に、来春、スマトラから漁業青年を迎える話がすみ、五色町で漁業を営む方が中心となつて8月に自費でスマトラの漁村を訪問し、どんなところで、どんな方法で漁業が行われているかを、プロの眼で確かめることになりました。そして、五色町で受入れが可能か、無理ならば日本のどこが適当かを判断することになります。1期生受入れの際、丹波篠山の方々がネパール、フィリピンを前もって訪れて下さったケースと同じような理想的な形です。協会からは草地総主事がお伴し、研修生候補者との面接も行われます。

PHDサウンド<7>

グループボカラ
代表 岩佐康子さんにうかがう

「私にとってPHD研修生とのふれあいは結果的にアジアの人から学ばせて戴いたことになります。と申しますのは、大半の日本人が忘れて去っている終戦直後の生活とも重ねあわせ、アジアの国々の様子を知ることにより、今の自分の生活をみつめ直すいい機会となりました。」とグループ・ボカラのリーダーでPHD第2期研修生ラダさんの家庭滞在と、研修指導(洋裁)をされた岩佐さんは語る。

グループにとってラダさんの遺したもののは大きい。

ラダさん滞日中、メンバーは彼女を通じてネパールを知り、アジアに目覚めたという。そして彼女の帰国後1年、グループを彼女の出身地名ボカラ(ネパールの都市)と名付け、バザール開催へと…。

去る3月30日、メンバー13人はPHD運動に協力するためのチャリティバザール」を行



た。準備期間1ヶ月。手がけた物は、スカート、エプロン、クッション、袋物、縫いぐるみ、ナイトドレス等250点に及ぶ手作りの品々。なかには、バザールの話を聞くや、お手玉50個届けてくれたおばあちゃん、遠く奈良の方

(連絡先 〒671-11 姫路市大津区天満675 岩佐氣付
TEL.(0792)39-0600)

ヤングのつくるコーナー

青春の胎動

「愛の歌」が伝えるもの

「岩村博士のPHDのメッセージをきいて誰かがつぶやきました。『愛があれば』と。世界中の人がこの愛の心をもてば、荒廃と摩擦、さらにはいまわしい戦争への不安なごみ、私たちが失いかけて大事なものをよみがえらせるのではないかでしょうか。」

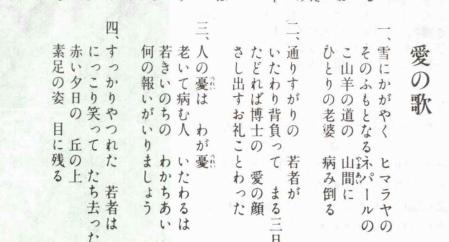
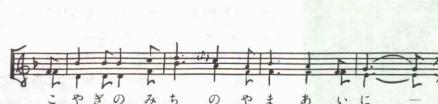
博士の願いをうけて「愛の歌」をつくりました。この曲は一少女が原曲を作り、(中略)広く世の皆さんに愛唱いただきたいと念じています。」

「愛の歌」楽譜—庄原子どもの文化を育てる会編より抜粋

この歌は上の紹介文にもあるとおり広島県の一人の女の子のメロディをもとに、多くの人の協力によって素敵なものになりました。この歌

には、アジアのことを覚えるだけではなく、身近な毎日の暮らしの中に愛の心を忘れないでほしいという願いがこめられています。「他人

思いをこめて 愛の歌(二部合唱) 庄原子どもの文化を育てる会編



協会にこの歌のテープが届いています。ご希望の方にはダビングします。カセットテープと返信用切手を協会までお送り下さい。

PHD運動 参加者の声

ドシドシお便り下さい。

今、日本では食べ物も豊かで、病気も余りなく幸せいです。同じ地球上に住んでいて、皆が幸せにならなければいけないと思いました。その為に、クラスで畑を借りて、野菜を作り、それを売ったり、また、はい品回収を何度もして、一生懸命お金をためてきました。みんなが心を一つにしてがんばってきたことは、僕達のために、とっても良い勉強になりました。クラスみんなの心を込めて送ります。ネパールの皆さんのためにお役立てください。

(小学生・男)

僕のおばあちゃんはいつも言います。「貧しい国子供の事を考えたら、誠志は幸せよ。」

以前は、「そんなこと僕知ったことじゃないもん」と、言っていましたが、今は別です。同じ人間だったら、助けるのがそれが人間だと思います。

(中学生・男)

● ● ●

岩村先生のお話は、私共の生活を一度立ち止まって振り返ってみる良い機会となりました。花火の様に一度きりでおしまいというのではなく、細く長く、弁のような役目をしてもう為にも、PHD運動を私達も続けていきます。ここに、バザーの売上げの一部を送ります。(主婦)

● ● ●

私はいつも鉛筆を使っていますが、使えないとなると、引出の中に突っ込んでいました。でもこの頃は5cmの鉛筆でも学校や家で、キャップを付けたり、長くするのを付けたりして使っています。私は思うんです。物を大切にする心のある人は、人も大切にするんだろうと…。私もネパールの人達と友達になりたいです。

(高校生・女)

映画を見て、今生活に困っているのはアメリカの人々だけと思っていたけれど、他の国々も苦しいのだなあと改めて考えさせられました。胸が痛くなります。(中学生・男)

● ● ●

この欄を通じて協会と皆さんの相互交流をはかりたいと思います。PHD運動を知ったこと、考えたこと、変わったことなど、また、皆さんの地域での動向や、今後の活動への提案や質問など、お寄せ下さい。待っています。

ハミタシ情報 あつまれ須磨へ!

6月2日(日)、神戸市の須磨海岸で「アルミ缶拾い散歩」を行います。国鉄須磨駅の南出口に午後1時集合。PHDのTシャツの人が目印だから迷ってきてもすぐわかる。3時ごろまであります。雨天中止、参加無料。ネパールからのPHD研修生も参加します。

PHD NEWS

基金寄附状況(会費・寄附)

1985年 3月	¥ 3,486,854	・ 97件
4月	¥ 3,049,437	・ 393件
計	¥ 6,536,291	・ 490件

1985年度会費のご納入を中心にご協力をいただき、感謝申し上げます。上記のとおりご報告いたします。

1985年度会費納入のお願い

この4月より新年度に入り、1985年度のPHD会費、友の会会費の受付を行っています。よろしくお願ひいたします。

ロータスクーポン受付住所変更

昨年より回収にご協力いただいているロータスクーポン、グリーンスタンプ、ブルーチップの送り先が変わりましたので、今後は下記にお願いいたします。

④380 長野市三輪10-6-25 清水真祐美様宛

ご紹介いたします。ご近所に適当な業者の方が見あたりませんでしたら、どうぞ。量がまとまるようでしたら兵庫県内、大阪、京都あたりまで出張するとのことです。

近畿タルワックス株式会社

〒657 神戸市灘区味町4-12 TEL.(078)881-2626

新PHDオリジナルTシャツ、4種登場

前面にネパール、フィリピン、タイとカレン族のそれぞれの言葉で「共に生きる」をあらわし、背中にPHDの新しいマークをあしらったTシャツができあがりました。大人用はフリーサイズ、子供用にS/Sサイズもあります。各地で開催するバザーでお預けしますが、郵送でのご注文も承ります。国名・サイズ・枚数をお知らせ下さい。



価格2000円(郵送の場合に送料実費ご負担下さい)。
白地に
ネパール:青
カレン:赤
タイ:イ
フィリピン:黄
の文字

募金・会員募集のポスターができました

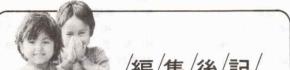


基本財産造成のための募金と会員呼びかけのポスターがでました。掲示場所を探しています。郵送もします。ご協力を。

新しいPHDのシンボルマーク



神戸在住の増田幸一さんのオフィスF&Fがボランティアとして、PHDの新しいデザインを作成して下さいました。感謝。



/編集/後記

今号は紙面を刷新。丸と直線で描かれたタイトルには各国の価値観の違いを越えた相互理解が詰まっているような気がしませんが、皆さんいかがでしょう。

又、幅広い年齢層に応じた記事の割りふりをし、内容面も写真や絵で親しみをえてみました。小さいお子様とはレターを通してぜひ会話をひとときを持って戴けたらと思います。皆さんからのご感想、ご質問等の投稿を期待しております。(M.S.)

アルミ缶の回収依頼はこちらでも

アルミ缶回収によるご協力ありがとうございます。お集めいただいたものをどこで換金するかについてお問い合わせがありました。

理事会報告

さる3月28日、神戸市勤労会館で第9回理事会が開催され、1)84年度補正予算、2)85年度事業方針計画、3)85年度予算が決定されました。